

人は生き残れるのか（その一 環境変化）

松浦 俊博

地球に生命と呼ばれるものが誕生してから約三十九億年といわれる。単純な物質から複雑な物質へ化学的に進化していった末に、生命という機能を獲得し、生物と呼ばれる。当初は海水に生息していた生物の一部が淡水に押しやられ、四億年ほど前から一部が地上に押し出されて、一部の生物は空中を飛翔するようになった。地上に出るためには大気中の酸素量が二〇%程度まで増えて酸素呼吸ができ、水も必要なだけ供給され、酸素から作られたオゾンにより有害紫外線が遮断される環境が必要だった。

生物は発生した時と同じ環境が保たれば生命を維持できる。しかし、この半世紀は人自身による急速な環境破壊が目立つ。今世紀半ばまでには、現存する約一千万種の生物の四分の一が消滅するという予測もある。人間の利己主義が地球環境を破壊するのは残念だ。

大気中の二酸化炭素量は産業革命前に 280ppm だったが、現在は 416ppm まで増え、地球温暖化を実感する毎日である。このため、海水温が上昇して異常気象をもたらすし、潮流が変わり魚や海産物がとれなくなる。農作物も不作に悩まされ産地は北上するようだ。極地や高山の氷が解けて海面上昇が生じ、海に沈む島国も出現し始めたし、今世紀末には日本の海面も七〇cm くらい上昇するといわれている。さらに、シベリアの永久凍土に閉じ込められていたメタンが大気に放出されて一層の温暖化を引き起こし、オゾン層は破壊されて有害紫外線が地上に降り注ぐようになる。

追い撃ちをかけるのが人口の急増である。一九八七年に五〇億人を突破し、二〇二二年には八〇億人を超えた。地球上で食糧を供給できる最大人口は七十億人と言われている（注一）。十分な食料がなければ人は餓死するが、その過程では格差から生じる戦争が起きるだろう。人はもともと集団の力で繁栄してきた一方、私欲を求めるために集団相互に戦い続ける。

地球上の他の生物、例えばアリなどは環境に合わせて形態を変化させて生き延びそうだ。魚だって人よりは生き延びるだろう。世代交代期間の短い生物は新しい環境に適応するよう容易に変化する可能性が多分にあるが、人は今から変化できるだろうか。

注一、世界人口七〇億人を突破 地球はどれだけの人口を養えるのか（エネルギー・文化研究所（大阪ガスグループ）二〇一二年）